

【結果報告】性の多様性等に関する県民意識調査（速報値）

1 調査概要

(1) 目的

県民の性の多様性に関する理解などを把握し、今後の人権施策の推進の参考とする。

(2) 調査対象・方法

市町村の住民基本台帳から県内に居住する 18 歳以上の者 3,000 人を無作為抽出し、郵送及び Web で調査

(3) 調査期間

令和 8 年 6 月 4 日～ 7 月 2 日

(4) 回収結果

有効回答：1,216（回収率：40.5%）

ウェイトバック集計※件数：1,175

※本調査では、母集団である鹿児島県の年齢別・性別の構成割合と一致するよう補正するため、年齢・性別によるウェイトバック集計を実施（年代、性別のいずれかに無回答であった者は除外）

2 調査結果概要

(1) 性の多様性に対する理解について

ア 用語理解

- ・「言葉の意味も含めて知っている」
60% 超：性同一性（64.8%）
50% 超：LGBTQ（51.4%）
40% 超：性的マイノリティ・性的少数者（45.9%）、
性的指向（45.2%）、性自認（42.8%）、
30% 超：ジェンダーアイデンティティ（31.6%）
10%未満：アウティング（9.3%）、SOGI（3.2%）、
アライ（2.5%）

イ 身近な性的少数者からのカミングアウトや支援要請への態度

「いままでどおり接する」68.2%、
「驚くが、話を聞く」64.2%、
「自分を信頼してくれてうれしいと思う」31.9%

ウ 性的指向／性自認に関する人権問題・解決に必要な取組

- ・人権問題
差別的言動（49.4%／51.3%）、
職場、学校等での嫌がらせやいじめ（46.3%／47.6%）など
- ・人権問題解決に必要な取組
正しい知識の教育や啓発（56.7%／55.8%）、
相談窓口の充実（43.4%／43.8%）など

(2) パートナースhip制度等に対する理解について

ア パートナースhip制度の認知度

- ・言葉も内容も知っている (21.4%)
- ・言葉は知っているが、内容はよく知らない (49.6%)
- イ 制度の導入について
 - ※以下は制度説明を読んでいた上での回答
 - ・パートナーシップ制度：肯定的意見 (65.1%)
 - 導入したほうがよい (34.3%) + どちらかといえば導入したほうがよい (30.8%)
 - ・パートナーシップ制度：否定的意見 (5.7%)
 - どちらかといえば導入しないほうがよい (2.4%) + 導入しないほうがよい (3.3%)
 - 上記パートナーシップ制度導入に肯定的意見の方のうち、
 - ・ファミリーシップ制度：肯定的意見 (86.0%)
 - 必要 (54.7%) + やや必要 (31.3%)
 - ・ファミリーシップ制度：否定的意見 (0.6%)
 - あまり必要ではない (0.6%)、必要ではない (0.0%)

(3) 自身の性について

<性自認>

- ア 出生時の戸籍上の性別が男性
 - ※現在自認している性別が女性、男性・女性のどちらでもない、時により変化するのは該当なし
 - ・現在自認している性別が男性・女性の両方 (0.5%)
 - ・現在自認している性別がその他(わからない・回答しない等) (0.2%)
- イ 出生時の戸籍上の性別が女性
 - ※現在自認している性別が男性、男性・女性のどちらでもない、時により変化するのは該当なし
 - ・現在自認している性別が男性・女性の両方 (0.1%)
 - ・現在自認している性別がその他(わからない・回答しない等) (0.7%)

<恋愛対象>

- ア 出生時の戸籍上の性別が男性
 - ・恋愛対象が男性 (1.6%)
 - ・恋愛対象が男性・女性の両方 (0.4%)
 - ・好きになる性はない (0.2%)
 - ・決めていない、決めたくない (0.4%)
 - ・その他 (わからない・回答しない等) (1.4%)
 - ・無回答 (0.2%)
- イ 出生時の戸籍上の性別が女性
 - ・恋愛対象が女性 (1.5%)
 - ・恋愛対象が男性・女性の両方 (2.1%)
 - ・好きになる性はない (0.4%)
 - ・決めていない、決めたくない (2.0%)
 - ・その他 (わからない・回答しない等) (4.6%)
 - ・無回答 (0.4%)